

小牧市観光振興基本計画

第1章
計画改定の趣旨

第2章
観光に関する
社会的変化

第3章
小牧市の観光の現状

第4章
小牧市の目指す観光

第5章
計画の推進に
向けて

参考資料

第2章 観光に関する社会的変化

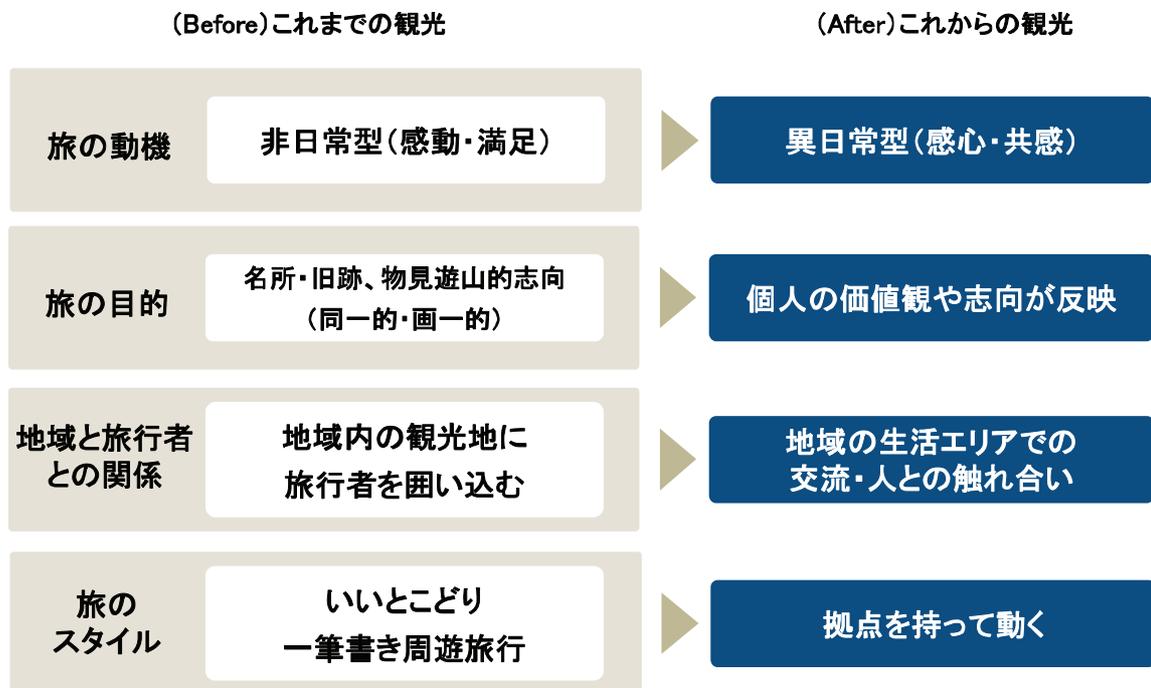
(1) 観光需要に関する価値観の多様化

社会経済の成熟に伴い、心の豊かさが求められるようになり、価値観やライフスタイルは大きく変化し、それに伴い旅行者のニーズも多様化してきています。

エコツーリズムやグリーンツーリズム、工場夜景見学などの産業観光、アニメの舞台となった地に訪れる聖地巡礼やファッションと連携した観光など、地域の特色を生かしたテーマ性のある旅行、いわゆるニューツーリズムが広がっています。観光地や観光事業者から一方的に発信された情報をもとに同じように行動するのではなく、個人の価値観や志向がより強く反映される旅行のあり方へと広がりを見せています。

また、若い世代ほど旅先で地元の人との交流を望み、上の世代は知的好奇心を埋めるような観光の場を求める傾向にあるとも言われています。

図 変わる観光の志向と“ツーリズム”領域の拡大



資料：(株)JTB 総合研究所「進化し領域を拡大する日本人の国内旅行（2019）」より一部抜粋

(2) 持続可能な観光

我が国では、急速な訪日外国人旅行者の増加も一因となり、一部の観光地において、地域住民の間で、あるいは訪問する旅行者の間で、旅行者による混雑やマナー違反などオーバーツーリズムの関心が高まっています。

そのため、オーバーツーリズムへの対処を含み、訪問客、産業、環境、受け入れ地域の需要に適合しつつ、現在と未来の環境、社会文化、経済への影響に十分配慮した持続可能な観光が求められるようになっていきます。

(3) インバウンドの回復

訪日外国人旅行者数は、2019年までは過去最高を更新していましたが、コロナ禍の影響で、2020年からインバウンド需要はほぼ蒸発したものの、2023年以降は急激な回復傾向にあります。

今後も、大阪万博（2025年）やアジア・アジアパラ競技大会（2026年）など国際的なイベント・大会の開催が予定されており、より多くの外国人の来訪が期待されています。

(4) 観光DX

コロナ禍の影響から観光需要が回復に向かう中、観光産業では生産性の低さや人材不足といった構造的課題が一層顕在化しています。また、観光の付加価値を示す観光GDPの国際比較から、我が国は、観光の付加価値額や経済全体に占める割合が低い傾向にあることがわかっています。

さらに、近年、観光客は、旅行する前にインターネットやSNSなどで、情報を収集し、自ら旅行の手配をすることが主流となっています。また、旅行中でも、SNSなどで情報を発信したり、旅行先の情報を収集、旅行後もSNSなどで旅行の感想を発信したりするなど、デジタル化が著しくなっています。

このような背景のもと、近年、観光DX（デジタルトランスフォーメーション）が注目されています。観光DXとは、業務のデジタル化により効率化を図るだけでなく、デジタル化によって収集されるデータの分析・利活用により、ビジネス戦略の再検討や、新たなビジネスモデルの創出といった変革を行うものと位置づけられます。

今後の観光振興施策を検討していくうえでは、観光DX施策は無くしてはならないものとなってきています。